

期限切れ



実用新案登録願



(1500円)

昭和47年3月8日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

1. 考案の名称

自転車用発電機

2. 考案者

住所 兵庫県伊丹市伊丹字古城下1番地
倉毛エレクト工業株式会社内
氏名 藤 江 謙 三

3. 実用新案登録出願人

住所 兵庫県伊丹市伊丹字古城下1番地
倉毛エレクト工業株式会社
代表者 広 瀬 恭 一

4. 代理人

住所 郵便番号 651
神戸市葺合区雲井通7丁目4番地
神戸新聞会館内 電話(078)251-2211
氏名 (5376) 清 水 哲 (ほか 2名)

47 028241

方式
審査

48-103805-01

明 細 書

1. 考案の名称

自転車用発電機

2. 実用新案登録請求の範囲

自転車のハブの内部を貫通して該自転車のフレームに取付けられて該ハブを回転自在に支持する軸と、該軸の上記ハブ内部に位置する部分に取付けられた固定子と、上記ハブ内面に上記固定子と対向して取付けられた回転子とからなる自転車用発電機。

3. 考案の詳細な説明

この考案は自転車に取付ける発電機の改良に関するものである。

一般に自転車用発電機はその回転子が自転車の車輪のタイヤ部に接触するように自転車の車体に取り付けられ、タイヤ部との接触回転によつて発電を行うものである。従つて、接触抵抗が大きくなるため自転車の運転に大きな労力を要し、また自転車のタイヤ部の摩耗も甚だしくなる。

この考案は上記欠点を解消するため自転車のタ

(1)

イヤ一部以外から回転力を受けて発電を行うことができる自転車用発電機を提供することを目的とする。

以下、図を参照してこの考案による自転車用発電機の一実施例を説明する。

図において、1は例えば後輪用ハブで、その内部を貫通する中空軸2によつて回転自在に支持されている。ここで軸2はその両端が自転車のフレーム3に取り付けられ、玉軸受4によつてハブ1を回転自在に支持している。5は固定子で、ハブ1内の中空軸2の部分に取り付けられていて、コイル6が巻かれている。7は磁石で、コイル6に対向してハブ1の内壁に取り付けられ、発電機の回転子を構成している。なお、8はスポーク穴8aが穿設されたつば部、9はフリーホイールを取付ける蝶条、10及び11はコイル6から中空軸2の内部を通つて導出された導線である。

上述の構造から明らかなように、ハブ1が回転すると、コイル6の周囲を磁石7が回転することになるので発電が行われ、電力が導線10と11から

取出される。

以上述べたように、この考案による自転車用発電機は自転車のハブ内部に取付けられてその回転子が自転車のタイヤ部と無接触状態にあるので、従来に比較して発電による自転車の運転労力やタイヤ部の摩耗度を著しく減少させることができる。

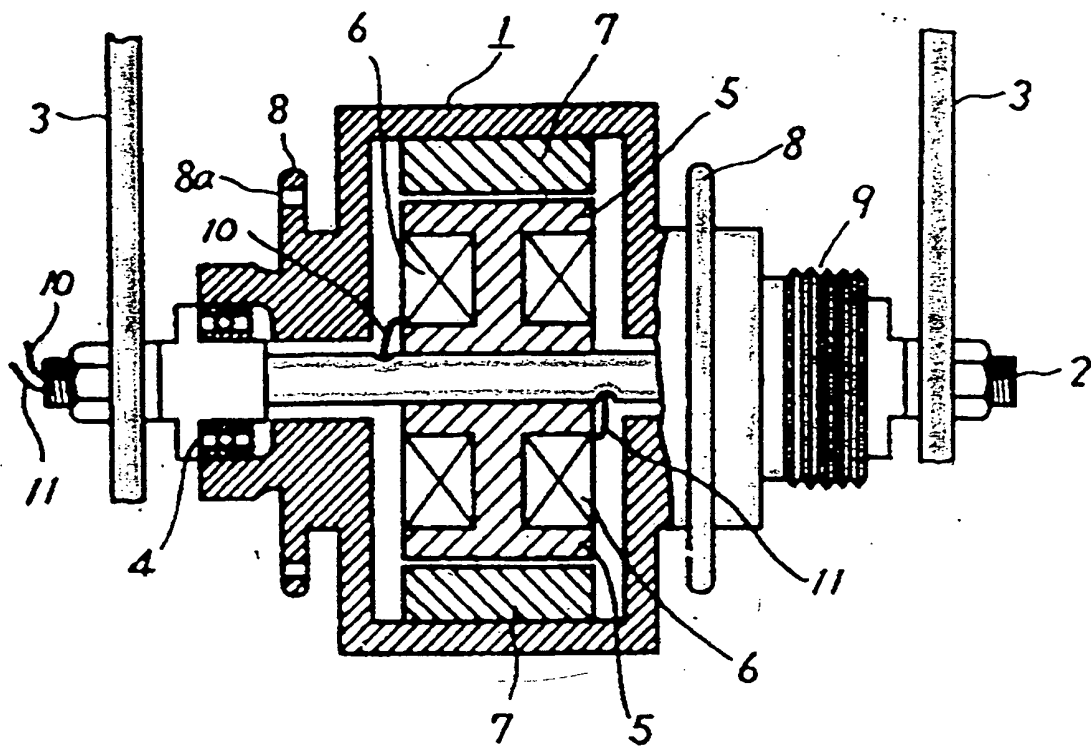
4. 図面の簡単な説明

図はこの考案による自転車用発電機の一実施例を概略的に示す図である。

1 ... ハブ、2 ... 軸、3 ... フレーム、4 ... 玉軸受、6 ... コイル、7 ... 磁石。

実用新案登録出願人 倉毛エレクト工業株式会社

代理人 清水 哲 ほか2名



実用新案登録出願人 倉毛エレクト工業株式会社
 代理人 清水 哲 ほか2名

103805

48-103805-05